

2023年11月7日(火) 大阪府守口市

テーマ 「幼児教育・保育の無償化」



○人口 141,607人

○世帯数 73,603世帯

○面積 12.71km²

○一般会計当初予算額(令和5年度)
681億円

○位置・特徴

大阪平野のほぼ中央部、淀川の左岸に位置し、大阪市、門真市、寝屋川市に接する平坦地。パナソニックなどをはじめ多くの関連工場が集積する産業都市。

初日は「幼児教育・保育の無償化」をテーマに大阪府守口市を視察。

京阪線守口市駅前に市民体育館と文化会館があり市役所も駅から徒歩5分ほどにある。2016年旧三洋電機本社ビルの建物と土地を約48億円で取得、約10億円をかけて改修し市役所新庁舎として活用している。地上10階建ての本館と2階建ての別館で構成。保険課や生活福祉課、子育て支援課やパスポートコーナーなどの窓口部門を本館1～3階に集約し市民が利用しやすいように配慮されている。

所管事務調査のテーマは「幼児教育・保育の無償化」である。

守口市でも少子・高齢化は加速し税収も頭打ちであり、将来を見据えて子育て世帯に優しいまちづくりで市民の定住を促進するために国に先駆けて2017年(平成29年)幼児教育・保育の無償化へと舵を切ることになった。

特筆すべきは、対象年齢は0歳から5歳児(未就学児)で所得制限もないこと、市民であれば他市の施設を利用する場合も対象になっていることである。

これにより就学前人口(0歳から5歳児)と子育て世代20歳代の人口が着実に増加していることから幼児教育・保育環境の充実が求められており、様々な保育環境の充実を図る取り組み

みの一つとして新卒採用の保育教諭等に採用法人と協働し年間最大 40 万円の支給等も行っている。

目に見える形で一定の効果を挙げているものの、大きな課題は「定住」とのこと。小学校へ入学する時に他市へと転出していく家庭も一定数あるとのお話があった。これは既に狭いエリアに住宅が密集しており大規模な開発が難しいこと、守口市に住み続ける決定打がないことで通勤・通学により便利な他市へと転居してしまうとのこと。次の一手をどうするか試行錯誤が続いているようである。

「幼児教育・保育の無償化」と「移住・定住」は密接な関係がある。近隣市町村とパイを奪い合うのではなく広域連携も模索することも必要だと思っている。全国各地で同じような施策があるため強烈的な個性がない限り選ばれる町になるのは難しいと推測される。本市においても「秦野でなければいけない理由」を真剣に考えていく必要があるのではないだろうか。

【参考となる URL】

[第 6 次守口市総合基本計画](#)



2023年11月8日(水) 岐阜県大垣市
テーマ 「子育て施策」



- 人口 158,318人
- 世帯数 69,351世帯
- 面積 206.6km²
- 当初予算額(令和5年度)
619億5000万円
- 位置・特徴

東京と大阪の間に、また名古屋のすぐ北西に位置しており、大都市へのアクセスが容易。古くから東西交通の要所として歴史的にも重要な機能を果たしてきた。

2日目は、「子育て施策」をテーマに岐阜県大垣市を視察。

関ヶ原の戦いの舞台でもある大垣城を構える大垣市に旧墨俣町、滋賀県境の山間部に位置する旧上石津町が2006年に合併、全国的にも珍しい二重飛び地の自治体である。本市と同様に町のいたるところで湧水スポットが見られる。

「子育て日本一をめざす街」を掲げて様々な事業を行っており「住みよさランキング岐阜県内第1位」にもなっていることは注目に値する。

大垣城郭内にある公園では、大きな遊具が置かれ数組の親子が楽しそうに遊ぶ姿を見ることができた。芝生広場もあって休日は賑わう公園では一般的な公園ではお目にかかることのない遊具が置かれていた。

「毎日、自由に使えます」と書かれた看板があり実際に道具を手にして楽しそうに遊ぶ親子にお話をうかがってみた。

「大垣は子育てしやすい環境ですか？」

「そうですね。引っ越して来たんですけど子育てしやすいと思います」

聞けば福岡から家族の転勤で大垣へやって来たとのこと、砂遊びもできて芝生ゾーンもあるプレーパークの役割も大きいとのこと。

本市にもペコちゃん公園やおおね公園などがあるがプレーパークとしての機能はないので大いにヒントになるのではないかと思います。

さらに、

「車がないと生活しづらい地域ですが、これがあるので助かります」

「上限はありますけど、かなりの枚数を活用できるのは嬉しいです」

と「親子バスチケット」に関するお話があった。

小学校6年生以下のお子さんと一緒に路線バスで市内を移動した場合、親子等の運賃が無料になるとのこと。（妊娠中の方も対象）

本市においても神奈中バスとの協働で親子バスチケットを導入したらいいのではないかと思います。うかがうかどうか。

さらにご紹介いただいたのが大垣駅前にある子育て支援センターである。

「キッズピアおおがき交流サロン」では子育てイベント、おしゃべり会、相談など多くの充実した企画がある。子育てアドバイザーさん常駐、気軽に相談ができる体制も整っている。子育て世代の皆さんにとっては心強い存在となっているであろう。

大垣市役所では「子育て施策について」お話をうかがった。市の概要から始まり、幼児教育、地域子育て支援拠点、発達支援などが話題に上った。

「子育て日本一」に向けた様々な施策についても詳しい説明を受けながら驚いたのは「子育て支援条例」があることである。

条例に基づいた独自施策（以下）が充実しており、子育て世代に優しい自治体であることが容易に理解できる。

- エンゼルサポーター
- 家庭訪問型子育て支援ホームスタート
- 親子バス利用支援
- 多胎家庭おでかけアシストタクシー
- 出産祝い金の支給
- こども医療費の助成（高校生世代まで対象を拡大）
- 養育費手続き支援
- 水都っ子ウィーク

とても充実した内容に圧倒されつつ、本市において子育て施策に大幅な予算を投じるにはどのようにすればよいのか検討してみたいと思った。

【参考リンク】

[「子育て支援条例」](#)

[令和 5 年度 水都っ子 PDF データ : suitokkoall.pdf サイズ : 7.69MB](#)



2023年11月9日(木) 愛知県刈谷市
テーマ 「小中学校体育館空調設備整備事業」



- 人口 152,972人
- 世帯数 69,115世帯
- 面積 50.45km²
- 一般会計当初予算額(令和5年度)
633億6000万円
- 位置・特徴

愛知県のほぼ中央に位置し、西三河平野西部にある。市の中央部には最先端技術を駆使した自動車関連産業の工場が並び、活気にあふれている。

3日目は「小中学校体育館空調設備整備事業」をテーマに愛知県刈谷市へ。

刈谷市はトヨタ自動車関連会社が軒を連ね、まだまだ発展し続けている自治体である。視察した小学校も児童が増え令和2年度に校舎を増築しており周辺でもマンションなど住宅建設が進んでいる。

小中学校の体育館に空調設備を設置する意義は大きく2つある。

まずは「児童生徒の教育環境の充実」である。

近年の高温が続く6月から9月の学校現場では熱中症リスクに最大限の警戒をしている。刈谷市においても暑い日は体育の授業や外遊びを制限するなどの対策を講じてきたとのこと。また、冬場の寒い日には集会活動などにも支障をきたすことがあった。

これまで国の交付金制度なども活用して校舎には冷暖房が設置されてきたが体育館で空調設備を目にすることは珍しい。夏は涼しく、冬は暖かいのであれば体育の授業など、学校行事や部活動など、日頃の教育活動も安心して実施できる。さらに地域のスポーツ団体や自治会などが利用する時にも有益である。

そして、「避難所機能の充実」である。

地震や風水害など災害発生時に自主電源機能をもつ体育館が地域にあることは市民の生命を守るという観点からとても重要なことである。

刈谷市は都市ガス、プロパンガス併用の GHP 方式を採用しており、災害発生時に都市ガスの供給がなくてもプロパンガスの運転に切り替えられるにしている。さらに電源自立型の室外機が設定され、停電時も体育館のトイレなど一部の照明を継続して利用できる点も安心である。

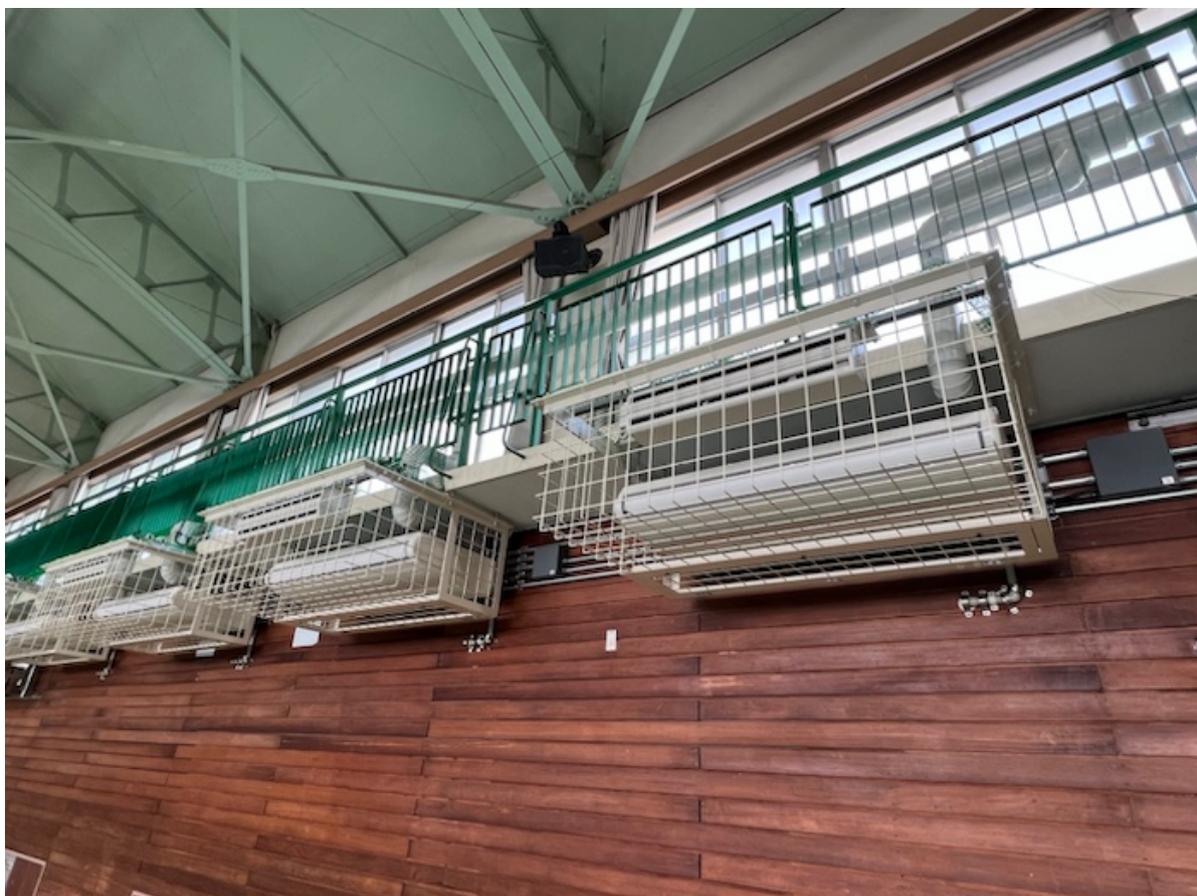
整備事業費は令和 4 年度実績では 710,516 千円（内訳 学校施設環境改善交付金 93,984 千円、市債 611,900 千円）とのこと。設置後も維持管理が必要であり、燃料費などコストがかかるのが難点であるとのこと。

多くの自治体では校舎なども耐用年数からして建て替えや補修も必要となるため未来を見据えた予算配分が求められる。本市に置いても即導入できたらありがたいが、今後の人口動態や学校統廃合など多くの条件を加味しながら多角的な検討が必要になると思う。

【参考リンク】

[事業名事業の内容予算額\(千円\) - 刈谷市](#)

[空調（冷房）設備設置状況（小中学校） - 文部科学省](#)



まとめ

今回の所管事務調査では大阪府守口市、岐阜県大垣市、愛知県刈谷市を視察。それぞれの町の成り立ち、地域の歴史、文化、伝統、産業、暮らしなど様々な視点を踏まえながら「幼児教育・保育の無償化」「子育て施策」「小中学校体育館空調設備整備事業」について考える、本市の未来を創造するにあたり大いに参考となることばかりであった。

しかし、それぞれの自治体には個々に多くの課題を抱えていることもあり、そのまま導入を試みても失策へとつながりかねないので慎重な議論が必要である。また、各事業が単発ではなく、他の事業と間接的に繋がっていることも意識し、多くの点を線に繋げ面としながら重層的な施策を大胆に講ずる必要性を感じたところである。

各委員、議会局の皆様、そして対応して下さった各市の皆様に感謝いたします。